



ペスト菌を発見した北里柴三郎の招きにより、明治41年6月12日、コッホ夫妻を乗せたサイベリア客船が横浜埠頭に入港した。その3年前にノーベル賞を受賞したドイツ細菌学者ローベルトコッホを、柴三郎は蒸気船吾妻丸でサイベリア号までお迎えに行き、ベルリン留学から15年ぶりの再会をはたした。「変わらないね、北里君」コッホは涙を流した。新橋から馬車で帝国ホテルへ向かい、コッホの日本滞在がはじまった。

6月13日、軍服正装の森鷗外がコッホを表敬訪問。コッホは自分の教え子たちの母国での活躍に満足であった。帝室博物館、鑄金展覧会も見学。14日、柴三郎主催のコッホ歓迎晩さん会。挨拶でコッホは柴三郎の純日本の熱心と忍耐、天性の才能をほめた。えた。6月16日コッホは急な依頼であったが1300名の医学者への講演会を行い、柴三郎が通訳をした。夜は歌舞伎座で観劇、コッホ夫妻のため森鷗外がプログラムの説明文をドイツ語で付した。17日大倉美術館案内、伝染病研究所では記念樹として月桂樹を植樹。22日浅草見物、隅田川へ。浅草茶屋ではコーヒーと好物の梅干し、ホテルでのモーニングでもコーヒーに梅干しを欠かさなかつた。宮中に参内して天皇に謁見、すもう見物。過密スケジュールによりコッホは発熱、体調をくずし予定変更となり、7月3日〜26日まで鎌倉の海浜院ホテルで静養、その間にさがみ湾、伊豆、三浦、富士山を望む霊仙山へ登った。その後、名古屋、伊勢神宮、五十鈴川、日本美観賞のため待望の奈良、京都、著名な寺院はほとんど訪れた。瀬戸内海周遊、厳島神社、宮島、島めぐりや魚釣りにも興じた。8月20日横浜オリエンタルホテルにもどり、8月22日午さん会、記念撮影では医師会から送られた紋付羽織はかまを披露。8月24日、74日間のコッホ夫妻の長期滞在は終わり、インプレスオプインディアン号で横浜埠頭を離れ、9月21日からのワシントンでの万国結核会議へと向かわれた。

そして明治43年5月27日心臓発作にてコッホは67才で永遠のねむりにつかれた。コッホの心ある指導により北里柴三郎氏等、明治の細菌学者の努力により、今の清潔な日本があることをあらためて知った。どうかコロナも乗り切れますように。



10月行事予定

4(日) いとばた会
22(木) 食事会

お誕生日

おめでとうございます

- A 様 (100 歳)
- B 様 (94 歳)
- C 様 (83 歳)
- D 様 (72 歳)



A 様 (100 歳)



皆様、これからもお元気でお過ごし下さいませよう……。

令和2年度 長寿番付

B 様 (97 歳)



C 様 (96 歳)



D 様 (96 歳)



敬老会
九月二十一日(日)
今年の敬老会は、各部署でお祝をさせていただきます。長寿番付の披露と園からのささやかなお祝品贈呈後、祝膳を召し上がって頂きました。

今年十月満百歳の

お誕生日を迎えられ

る勝田英子様の長寿

お祝状と記念品が国

と県から贈呈されま

した。